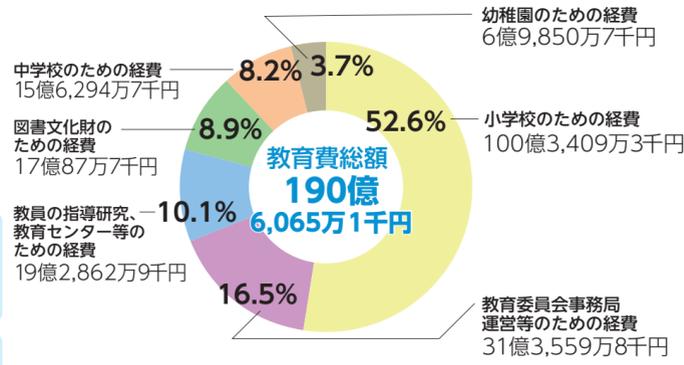


令和元年度

教育予算のあらまし

本年度の教育予算の総額は、190億6,065万1千円で、中央区全体予算(一般会計総額)の18.5%を占めており、前年度と比較すると、小学校・中学校等の大規模改修経費の増などにより、68億3,320万5千円(55.9%増)の増額となっています。



新規・充実等主な事業

【豊かな学びにあふれ健やかな体を育むまち】

◆**教育振興基本計画の改定** 144万2千円
 教育振興基本計画が本年度で終了するため、令和2年度を始期とした教育振興基本計画を策定します。

◆**学習力サポートテストの実施** 1,091万5千円
 児童・生徒の学習意欲や学力向上を目的とし、小学校第4～6学年と中学校全学年で「学習力サポートテスト」を実施し、経年経過を追うことで、今後の学習指導に生かします。

◆**能楽・歌舞伎鑑賞教室** 663万7千円
 日本の伝統文化に触れ合う機会を設定し、子どもたちの伝える力を育成するため、能楽・歌舞伎鑑賞教室を行います。

◆**英語教育の推進** 1億562万5千円
 全小中学校にALT(外国人英語指導講師)を配置します。(国際教育パイロット校である常盤小学校分は除く)

◆**小学校英語講師の配置** 1,478万9千円
 国際教育パイロット校を除く全校を対象に教員の英語指導力向上を図るため、小学校英語講師による巡回指導を行っています。

◆**プレディにおける自主学習支援** 4,872万円
 プレディ利用時間中に、校内の特別教室やランチルームなどを利用して職員を配置し、宿題を中心とした自主学習の支援を行います。

◆**小学校の改築および認定こども園の整備** 30億9,255万4千円
 児童数の増加への対応とともに施設機能の更新を行い、新しい時代に即した教育環境の整備や良好な学習空間の確保を図るため、小学校の改築および認定こども園の整備を行います。

◆**晴海地区の小中学校の整備** 1億6,198万1千円
 東京2020大会後の児童・生徒数の増加に対応するため、晴海地区に小学校と中学校を整備します。

◆**常盤小学校(別館)の整備** 15億2,479万8千円

◆**本の森ちゅうおう(仮称)の整備** 11億8,342万7千円
 労働スクエア東京跡地に図書館機能、郷土資料館機能、生涯学習機能を集約した「本の森ちゅうおう(仮称)」を整備します。

◆**ブックポストの設置** 161万5千円
 図書館で借りた本や雑誌などを返却する際の利便性を向上するため、シニアセンターに新たにブックポストを設置します。

平成29・30年度 中央区教育委員会研究奨励校 晴海中学校で研究発表会を実施しました

主題：東京2020大会後の変化する社会の中で、課題を解決しながら生き抜くことができる生徒の育成 ～共生社会の実現に向けた授業とカリキュラムの改善～

日程：平成31年2月15日(金)

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、各教科等で身に付ける能力を育成することを目的に研究を行いました。授業を実践して

いく上で、共通の実践項目を6つ設定し、その実現に向けて授業を組み立てていく工夫や改善を日々行っていました。本校の教育理念である「共生」を基礎にして授業改善やカリキュラムの検討を行い、教職員が一丸となって研究に取り組みました。

発表会では、主体的に授業を受ける生徒の姿に多くの賞賛の声をいただきました。今後もこの研究の成果を生かし、生徒の成長を見守っていきたいと思います。



資料をもとに世界の諸地域の特色を学び、課題解決のグループワークをしています。

常盤小学校(別館)について

日本橋室町三丁目地区第一種市街地再開発事業B街区として整備を進めていた常盤小学校(別館)が完成しました。2学期からの本格的な運用に向けて準備を進めてまいります。

別館の活用

各学年を2学級規模とするため特別教室等を別館に移設します。また、本区の英語教育の充実に資するよう、教職員の研修等に活用するとともに、7月か

らはスポーツ開放も行います。

施設の概要

所在地 東京都中央区日本橋本石町四丁目4番18号
 構造・規模 鉄筋コンクリート造・地上5階
 敷地面積 1,394.48㎡
 延べ面積 3,086.22㎡

問合せ先

学校施設課施設計画担当係長 ☎(3546)5308



別館 外観

5階	多目的室、和室、日本庭園
4階	家庭科室、図工室
3階	体育館
2階	
1階	音楽室兼視聴覚室、ギャラリー

教育委員会の主な活動状況(平成31年3月11日～令和元年5月10日)

- ◆第3回定例会および研修会 3月29日(金)
- ◆第4回定例会および研修会 4月10日(水)
- ◆校長・園長会 4月12日(金)
- ◆平成31年度教育施策連絡会 4月16日(火) 中野サンプラザ
- ◆青少年問題協議会 5月8日(水)



令和元年5月11日発行 No.155

編集：中央区教育委員会
〒104-8404 東京都中央区築地一丁目1番1号
☎(3546) 5503

P.2~3 THE 教育を語る
 P.4 令和元年度教育予算のあらまし
 P.4 晴海中学校 研究発表会
 P.4 常盤小学校(別館)について



有馬小学校入学式

4月8日(月)に小学校、9日(火)に中学校の入学式(水)に幼稚園入園式が執り行われました。新たな生活をスタートさせる2,566名の子どもたちは、緊張と期待で胸がいっぱいの様子でした。
 教育委員会は、学校・幼稚園が豊かな学びの場となるよう、教育活動を全力で支援してまいります。



明正幼稚園入園式(お祝いの歌とことば)

入学・入園おめでとう!

THE 教育を語る

「全ての子どもたちの学力向上のために」
 平成30年度より新幼稚園教育要領が全面実施され、新学習指導要領については、小学校は令和2年度より、中学校は令和3年度より全面実施されます。区内のそれぞれの幼稚園、小学校、中学校においては、幼児・児童・生徒により適切な指導ができるよう準備を進めています。2月22日(木)、教育委員会平林治樹教育長と月島第一幼稚園の早川幸園長、阪本小学校の小川優校長、銀座中学校の平松功治校長(当時、日本橋中学校長)が「これからの中央区の教育」をテーマに座談会を開催しました。



教育長 平林 治樹

「複雑化する社会において育むべき子どもたち」
 平林 就任以降、幼稚園、小学校、中学校における学習指導や保育の様子を見てきましたが、あらためて教員の皆さんの熱意ある指導や興味をもてる活動が、なんと多いことかと感じました。先生方、一人一人が創意工夫し、幼児・児童・生徒の様子をしっかりと把握して進めていることが分かりました。自分が子どもの頃を振り返ってみましたが、これまでの創意工夫は、画一的な指導がされていたのではないかと思えます。

現代は、学術・文化、経済などさまざまな分野でグローバル化が進展し、AIやICT技術が飛躍的に進歩するといった予測が困難な社会で、始めにどのようにつも子どもたちを育てていくべきかと思えます。

早川 幼稚園は、主体性をもって自分のことを自分ででき、「一人と関わる力」を育成していくことが大切であると考えます。そのため、日々の保育の中で、体を使った遊びをたくさん行うことによって、よく学び、感じ、考えることが必要です。また、教員は担当しているクラスだけでなく、園全体で幼児一人一人について理解し、共有することにより効果的な指導につながります。

小川 小学校の学習で身に付けた知識や技能を実際に活用して、自分の学習課題やクラスが直面する課題を具体的に解決していくこと、達成感を得ることが大事です。これが今後の人生を生きる上での基本的思考、基

平松 中学校を卒業するということは、義務教育の全課程を修了するというところで、幼稚園、小学校の教育を引き継ぎつつ、より社会を意識した教育が求められていると考えます。

今の社会は、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、人工知能AIの飛躍的な進化等により急速に変化していて、これから私たちの予測を遙かに超える時代となっていきます。ですから、生徒たちが、これから

本行動となると思います。また、集団で学習して生活するという日本の教育の強みを生かして、協働する力や連帯感を身に付けることも大切です。本校では、対話を重視しており、個↓集団↓全体↓個という学習形態を通して、問題解決や協働を体験的に深めてまいります。





早川 幸平 月島第二幼稚園長

な特色ある教育活動を通して子どもたちの能力を伸ばし、可能性を開花させる教育を推進しています。

このようさまざまな変化に恐れず、むしろ楽しむくらい積極的に向き合い、生き抜いていく力を少しでも身に付けさせたいと考えています。そのため、問題解決能力、また、他と協力することができると、コミュニケーション能力、そして、コミュニケーション能力の根幹である自分の意見や考えを相手に理解してもらう表現力の育成が、特に大切だと考えています。

平林 複雑化する時代の中でも、自ら考え行動することも、「コミュニケーション能力を發揮して他者と協働して問題を解決し、さまざまな困難を乗り越えていく子どもたちに育てていく」ということは、普遍的なテーマだと思えます。そのような力を身に付けることで、社会に立ってからもさまざまな考え、文化、宗教などを包含しながら共生社会の中で大いに活躍できる人材になると確信しています。

な思考力を付けることが中心となります。その際、ICT機器を有効に活用することは、プログラミング的思考の育成を加速させます。プログラミング教育では、何をどのように、どういう順序で進めるかを考えて組み立てることが中心となるので、先に述べた問題解決能力とも重なるし、自分の人生を切り開く基盤にもなります。

平松 日本橋中学校では以前から学力向上の研究に継続的に取り組んでいます。そんな中で、特に話すことに対する苦手意識をもつ生徒が多いという本校の実態がありましたので、学力の「活用」の部分、特に表現力等の育成の研究を進めることにしました。

平成28・29年度に研究主題を「将来の展望をもち自らの夢を語る生徒の育成」として、中央区教育委員会研究奨励校としての研究を進めました。夢を語るためには、語るべき夢をもたないといけません。これが将来展望性に当たります。また、語ることが出来る表現力の獲得も必要です。日本橋中学校では、28年度に研究をスタートする以前から「夢を叶える講演会」など、夢の実現にこだわった教育活動を進めていました。そして、さまざまな取組を通して、中学校の段階で具体的な夢をもって生徒はさほど多くないことが分かりました。そのため、「将来の夢はまだはっきりしない。

も意識しています。中学校は、教科別に教員が変わるため、各教科の教員が一つの方向に向かっていないと、最大の効果は生み出せません。そのため、横の連携において、教科間の連携をカリキュラム・マネジメントの視点で意識しています。生徒の側から見れば、数学で学んだグラフの活用の仕方を社会の地理で活用することや、国語で学んだ話し合いの工夫を他教科で応用できたという実感をもちたせることができれば、「授業で学んだことは役に立つんだ」と実感して、生徒の学ぶ意欲は格段に増します。

日本橋中学校では、年度当初に今年度の重点的に取り込む教育課題を全教職員で共通理解して、各教科の年間指導計画の中に位置付けるようにしています。その中の一つに他教科等との関連という項目も設けていて、保護者や生徒に明示しています。だからこそ、学校全体、学年全体の組織的体制で取り組むことが大切なのです。

小川 横の連携について、本校では、清掃や給食など日常的な縦割り班活動や委員会活動などの特別活動を行っており、その中でICT機器が活用されて、児童が情報を共有し、児童の知恵が他学年に伝承され、積み上がっていくという実践例もあります。つまり、校内の取組を横の連携としています。

縦の連携では、保幼小の連携や小中の連携が今ほど重要な時

だからこそやるべきことをしっかりとやりたい」という意識を生徒にもたせることが、将来展望性をもった生徒と同義であると捉えました。それ以来「将来の自分のために、今を大切に過す」というのが、日本橋中学校の教育の根底にいつもあります。

体力調査都内No.1の中央区

平松 知・徳・体バランスよく生きる力を身に付けるという意味で、中学生には体力向上も大きな課題です。日本橋中学校では平成29・30年度の2年間、東京都教育委員会指定のスーパーアクティブスクールとして、保健体育科の授業改善をしたり、昼休みの体育館開放でダブルダッチやクライミングウォールなどのニーズスポーツを身近にできる機会をつくったりと、いろいろな工夫することで少しずつ体力向上の成果も出ています。

早川 幼児期における運動遊びの充実が、小学校以降の体力向上につながることを考えており、平成29年度より区立幼稚園全園が「運動遊び推進園」として、自園の実態を的確に把握するとともに、幼児における体力の変容を数値化し、体力向上に向けた取組を推進してあります。本園においては、教師が活用できる環境の中で、工夫された遊びを提供したり、発達段階

にに応じた経験ができる遊びを取り入れたりしながら、幼児が自ら進んで運動に親しむことができる環境を意図的に設定し、運動の経験値を高めています。

平林 体力向上の面においても幼稚園での取組が非常に重要で、小学校、中学校の基礎となっているわけです。やはり、学力と体力向上のどちらにおいても幼稚園、小学校、中学校が系統立てて取り組んでいくことが重要であると考えています。事務局より、平成30年度の体力調査において、東京都全区市で、全国平均を越えた自治体は中央区だけであったと聞いております。今後も、継続して取組を進めてください。

平松 生徒が基礎的・基本的学力を身に付けるために、継続的に教員の授業改善を行ったり、日常的な取組を行ったりしています。まず中央区は、区採用の少人数講師が各校に配置され、これが基礎・基本の定着に役立っています。日本橋中学校では、国語・数学・英語で各2名ずつ計6名配置されていますので、この3教科に関しては1クラスを半分に分けた人数で授業を行うことができます。1人の生徒と向き合える時間が倍になり、確実に基礎・基本の定着に役立っています。また、この区講師を活用して希望者に夏季補習教室を実施したり、外国人英語指導助手（ALT）が各校に常駐したりと恵まれているなと思います。

確かな学力を定着させるための教育

平林 基礎的な学力を高めることは、子どもがたとえ明確な未来の展望をもっていなかったとしても、その先の将来の可能性

平松 校内研究に注力し、得た成果を周囲の学校に発信していくことは、自校だけでなく区内4中学校の使命であると考えています。この座談会においてそれをあらためて強く感じたいため、今後の指導に生かしていきたいです。

教育において、子どもたちの基礎的・基本的な学力が定着できる縦と横の連携を意識した取組と、将来求められるコミュニケーション能力や問題解決能力、論理的思考力、協働できる力を育成できる先進的な取組を、あらためて教育委員会として支援していきます。ぜひとも、地域や保護者の皆様には、学校、幼稚園および教育委員会の取組についてご理解と協力をいたいただきますようお願いいたします。



平松 功治 銀座中学校長

進められており、毎年どこかの中学校が研究発表会を行う体制ができています。現在、中学校では学力向上が最優先課題になりま

小川 基礎的・基本的学力を定着させるためには、日常的な一斉指導の授業の質を上げることと、個別指導の2つがあると思

小松 小学校も中学校においても、縦の連携だけではなく、横の連携

最大の効果を生み出す、縦と横の連携強化

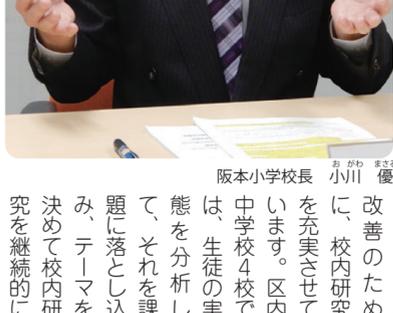
平松 小学校も中学校においても、縦の連携だけではなく、横の連携

小川 何のために勉強するのかという点について、少し規模を広げて考えてみると、自分が幸せになり、ひいては身の周りの人たちもより豊かです。生きているためと考えられます。そういった視点を、子どもたちの立場から考えて、より基礎学力の向上に力を入れていきたいと

小川 何のために勉強をするのかという点について、少し規模を広げて考えてみると、自分が幸せになり、ひいては身の周りの人たちもより豊かです。生きているためと考えられます。そういった視点を、子どもたちの立場から考えて、より基礎学力の向上に力を入れていきたいと



これからの中央区の教育について熱心に語る先生方



また、授業改善のため小川に、校内研究を充実させています。区内中学校4校では、生徒の実態を分析して、それを課題に落とし込み、テーマを決めて校内研究を継続的に